静岡発 こう読む

▶▶▶加藤裕治

歴史に2022年はどう見えるか

二〇二二年もあと半月。今年の最大の出来事は、ロシアによるウクライナ侵攻だろう。各種報道によれば、当初は非常に短い期間でキーウを陥落させる計画だったという。しかし、二月十四日にはじまった侵攻は、すでに十カ月が経過している。

さて、戦争といえば、一九四一年の十二月に太平洋戦争が開戦している。ふと気になったのだが、この戦争の開戦十カ月後は、どのような時期だったのか。

年表をみて改めて気づいたのだが、日本が主力空母四隻を失ったミッドウェー海戦は四二年六月、開戦わずか半年後の敗北だったのである。では十カ月後の十月はというと、ガダルカナルが主戦場となっていた。しかも兵器・人員に多大な損害を出して第二回総攻撃が失敗した時期であった。日本軍の組織的研究として著名な「失敗の本質」（一九八四年、ダイヤモンド社刊）では、「海軍敗北の起点がミッドウェー海戦」であるなら、「陸戦のターニングポイント」はこのガダルカナルだと指摘する。これ以降、日本は戦争で守勢にまわる。

ちなみにドイツは三九年九月のポーランド侵攻から十カ月後、イギリスへの航空作戦を開始する。結果は周知の通りイギリス上陸が断念され、独ソ戦へと進む。さらに朝鮮戦争は開戦から十カ月後、三十八度線で戦線が膠着（こうちゃく）しつつあった。その状況下でマッカーサーが中国国内攻撃を主張し、解任された時期なのである。

歴史を振り返ると、戦争開始十カ月後の時期というのは、それらの戦争の決定的なターニングポイントの時期に見えてくる。しかしその後、ドイツは約四年、日本も約三年戦争を続け、朝鮮戦争も二年以上続き休戦となる。その戦いは何であったのか。

さて、今月二日にバイデン大統領がウクライナの選択を尊重しつつ、プーチン大統領と「話す準備はある」と発言したと報じられた。バイデン氏も歴史を振り返っているのだろうか。ともあれ、二〇二三年はこの戦争が終結し、コロナ対策が整った世界が訪れてほしいと切に願う。

（静岡文化芸術大教授）

2022年12月11日
中日新聞（朝刊）p.5